

舟山

発行者
幸田町立南部中学校
鈴木 一也
第116号

一学期も残り一か月を切りました。期末テストを終え、部活動では、運動部の夏季大会も近づき、生徒たちは、練習に真剣に取り組んでいます。地域の皆様、ぜひ応援をお願いします。

さて、六月は三年生が修学旅行（八月十日）に出かけ、首都・東京を目の当たりにしてきました。二年生は三十一か所の事業所に協力いただき、職場体験学習（九月十日）を行いました。一年生は三年ぶりの水泳学習に向けて、プール掃除をしました。全校では、地域の方を講師としてお招きして、十六日に今年度初めての交流会を行いました。

これらのことは、普段の授業の中ではなかなかできない貴重な体験です。生徒たちは、いろいろな方との出会いや仲間と共に活動することを通して、多くのことを学んだようです。



修学旅行を終えて

二年 佐々木美音

今年の修学旅行のスローガンは「発信」になりました。仲間と行けることへの感謝や、一生心に残る思い出をつくるという意味が込められています。

南中では、当たり前のようにしている挨拶が、本当に大切であると感ずる心が温かくなる場面がたくさんありました。

ディズニースキーや国会議事堂などの見学では、学年やクラスのみならず、見ることも多く、普段知らない一面も感じました。

クラスで行った相田みつを美術館では、心に残る言葉がたくさんあり、考え方が変わりました。周りに流されずに自分や周りを幸せにしたいです。今回の修学旅行はいろいろな方の支えがあつて行けました。感謝して、これからの生活に生かしていきたいです。



相田みつを美術館にて

修学旅行の実行委員について

二年 梅村 侑弥

私は、普段人前で話したり、伝えたりするのが苦手なので、今まで実行委員などの役には立候補しませんでした。しかし、三年生になり、みんなの役に立ちたいと思い、今回の修学旅行の実行委員に挑戦することにしました。最初はなかなか自分の意見が言えなかったけれど、実行委員の話し合いを通して、行き先を調べたり、情報を共有したりする中で、自信をもって話すことができるようになってきました。実行委員でしか味わうことができませんでした。修学旅行中は、みんなが笑顔で楽しんでくれたり、しおりを見て動いてくれたりして、実行委員をやつてよかったと思えました。

今回の経験は自分にとっての挑戦で、本当にいい経験になりました。これからこの経験を生かしているいろいろなことに挑戦したいと思います。



先生！これ楽しいよ

挨拶の大切さ

一年 矢野 僚

私は「幸田スポーツ」様で職場体験をしました。私が職場体験で学んだ中で一番大切だと思ったことは挨拶です。接客業だからこそ、お客さんが『また来たい』と思うために、お客さんに自分から明るく挨拶をすることが大切です。

体験一日目に、竜海中学校へ納品に行きましたが、初めは、緊張からいつものように大きな声で挨拶ができませんでした。しかし、慣れてくるとお店の中だけでなく、外に出たときでも元気に挨拶できました。店長に『いいね』と褒めてもらえて、うれしかったです。お客さんに出会って最初の『いらっしゃいませ』という声でお店の印象が決まり、それが信用にもつながることを体験を通して知ることができました。今後の学校生活でも、挨拶を意識していきます。



よし、しっかりやるぞ

職場体験を終えて

二年 清家 大地

私は「林建設」様で二日間職場体験をさせていただき、重機などを動かしたり、工事について学んだりしました。特に重機操作は、複雑でうまく操作することができず、普段工事をしている方の技術の高さを感じました。

担当の方と一緒に過ごす中で、働く気持ち、根気、精神力が必要だということが担当の方の話から伝わってきました。そうした気持ちから「創り上げる」ということに対してやりがいをもつことも大切だと学びました。

この経験を生かし、自分の行動に責任をもち、周りのために動ける人になっていきます。



ちゃんと操作できるかな

協力し絆を深めたプール掃除

一年 山本 桃華

私は初めてプールを見た時に、濁った池のように見えて、衝撃を受けました。実際に入ってみると、ぬるぬるして転びそうになるくらい汚れていました。でもみんなと一緒に掃除に取り組みうちに、次第に夢中になり、楽しくなっていました。いつの間にか、プールはきれいになっていて、達成感や仲間との絆を感じることができました。

振り返ってみると、一年生九十八人で、学校のために一生懸命に掃除したからこその感ることができたと思えました。これから何事にも、仲間とともに「やり切る心」を大切にして、これからの生活より実りあるものになりたいと思っていました。



プール掃除は楽しいな

起震車体験から学んだこと

一年 永井 千帆

「なまず号」に乗る前は、それ程揺れないと思っていたら、メガネが落ちそうになるくらい予想以上の揺れにびっくりしました。机の足をどれだけ強く持っても、自分の体は安定しませんでした。本当の地震なら、物が落ちてきて、けがをするかもしれません。これに六分も耐えないといけないと思うとゾッとしました。

本当に地震がきたら、まずは落ち着くのが大切だと思います。学校なら落ち着いて放送や先生の話を聞く。家からは親の話を聞く。通学など一人のときは、落ち着いて自分を守る行動をすぐにとる。自分を落ち着かせて、命を守る最善の行動をとれるようにしたいです。常日頃から地震の恐ろしさを意識して過ごしたいです。



落ち着いて…

陶芸から学んだこと

一年 高橋 宗大

私は交流会で、陶芸を体験しました。最初は、こつをつかめばすぐにできるだろうと思っていた。しかし、予想とは違いました。

陶芸は、まず粘土で球体を作るのですが、この時点で既に難しく、さらに、手の上で上手に転がさないと凹凸が目立ってしまうので表面は平らにしないとけません。そして、作品を作るための粘土をのせる「ろくろ」という回転する台があります。これは、自動で回転はせず、自分で回転させます。他にも水を塗る量、スプーンを使って平らにするなど繊細な作業が多く、たくさんの苦勞があったからこそいい作品ができたのだと思います。

どんなことでも楽しめて上手にいくということは少ないと思うので、これからも苦勞する過程も大切にしたいです。



平らになったかな